



「国語辞典」をいつも机に

中学年から「国語辞典」の学習がありますが、わたし(尾形)は早い時期からこういうものを<道具>として使えるようになっていた方がいいと思っています。<「か」と「が」の順番がどの>とか教える前から、使えるようになればいいと思うのです。その習熟の具合は、小さい頃から使い込んでいるほどに身につくものです。

言葉に興味の出る2年生くらいから、全校で『MY 辞典』を持たせませんか?(できれば低学年から)。いろんな都合でどうしても準備できない子どもは6年生までもちあがりのできる辞書を学校からプレゼントしましょう。どうせいっぱいあるんですから(購入するまで貸してあげます、ということではいけませんか?)

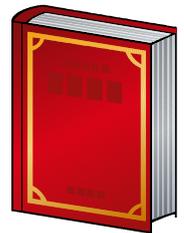
以下は、わたしがいつも4月の最初に保護者向けに書いている文章です。

最初は、1日に2~3回くらいは辞書を引く機会を作ってあげましょう。そのうち自分からひくようになれば「進んで学習する」態度が身についたと言えるでしょう。でも、そこまでいくためには、全校での取り組みが必要です。どうです、学級で、学年でやってみませんか?

本人専用の「国語辞典」

少し高いですが、子ども専用の「国語辞典」を買ってあげてください。4年生のときすでに購入している人はそれを持ってきてください。

出版社や種類は特に指定しませんが、大人用はだめです(持っていてもいいですが、それしかない、子どもにとってはきついです)。大人用は説明が難しいし、漢字にも仮名がついていないからです。大人向けの辞典ではないので、語彙数の多いものもいいとは限りません。かえって図や絵の多い方が、親しみやすくいいと思います。



「そんなに言うなら先生の方でまとめて買って下さい」という声も聞こえてきそうですが、一人一人が違う辞典を持っているほうが(クラス全体から見て、何種類もの辞典があるほうが)何かと勉強になりますので、あえて、おうちの方でご購入をお願いします。『国語辞典』はいつも教室の机の上に置いておきますので、専用のものを与えてください。5年生では、国語はもちろんのこと、特に社会科でいろいろと辞書を引く機会が多いと思います。初めて聞く言葉をさっと引けるような子どもになって欲しいと思っています。

今年新しく得た情報によると、私立の立命館小学校では1年生から「My 国語辞典」を与えて指導しているようです。そこには「2万語以上を収録した総ルビ付きの辞書がベストです」とありました(『辞書引き学習・自学ドリル』)。

そういう辞書としてたとえば次のような辞書が本屋さんで売られています。

- 『チャレンジ小学国語辞典』(ベネッセ), 『学習国語新辞典』(小学館),
- 『くもんの学習国語辞典』(くもん出版), 『小学新国語辞典』(光村教育図書)
- 『クラウン学習国語百科辞典』(三省堂)

書店で国語辞典を探すときには、子どもと一緒に書店に行って、同じ言葉を、複数の辞書で引いてみるとよいでしょう。辞書によってけっこう説明が違うことが分かります。子どもが「ピン」とくる説明の載っている辞書が、その子にあった辞書と言えるでしょう。

また、なるべく新しい版の辞書を購入してください。

「昨年度の学級通信より」